



本部敷地つちもち紀念図

1枚 静舟画 奈良県丹波市町 木下松太郎発行
明治43(1910)年 縦38.7cm 横52.5cm

土持ちひのきしんを描いた一枚刷り。一枚刷りとは、一枚の紙葉に版画などで印刷したものをいう。寺社境内図、名所案内、瓦版、絵地図、番付などがある。

明治中期から昭和初期には本教を題材にした多くの一枚刷りが出版され、おぢば帰参の人たちのお土産用として人気があった。

本図は大正普請に向け、教祖墓地近くの豊田山から本部敷地内へ土を運び入れるひのきしんを描いた一枚刷り。

明治四十三年は一月から大勢の人がひのきしんに精を出し、最も多い日は一日に三千

三百人もの人が参集した。一月のひと月で約三万六千人、最終日の七月九日までに七万七千人以上がおやしきへの土持ちひのきしんに汗を流したという。

図には豊田山の麓で土を切り崩す人たちが描かれ、切り出した土をもっこ棒で運ぶ人々の列は途切れることなくおやしきまで続く。人々の表情はいきいきとし、勇んだ様子が見て取れる。服装も興味深い。ほとんどは和服だが洋装らしき人もある。女性は日本髪で男性の頭には様々な被り物。どう見ても外国人に見える人物も描かれ、見ていて



中国風の服装に身を包む男性

飽きない秀作である。

ところでひのきしんの人たちは一人で棒を担ぎ前後に土を入れている。現在のように二人で棒を担ぐ姿ではない。こんな発見も楽しい。他の書物を見ても、この頃のひのきしんはみんな同じである。いつから現在のようになるのだろう。

(天理図書館 早田一郎)

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆立教174年 教祖誕生祭記念展「天理教の一枚刷り」

日時:4月16日(土)~26日(火)

◆平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

4月18日、28日~29日は閉館。

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)

※「陽気」2011年4月号より